

小児在宅ケア検討委員会（プロジェクト）

<目的>

周産期や小児医療の進展、現場の尽力により小児の死亡率が減少する一方、障害や慢性疾患を伴い、長期の療養を必要とする子どもたちが増えている。そのため、在宅療養に移行した小児についても、高齢者と同様、地域包括ケアシステムとして、その受入体制の充実が重要である。

日本医師会において、小児の在宅療養について課題の整理と対応、方策を検討し、国や関係各方面に提言を行う。

<委員（10名）>

田村 正徳（埼玉医科大学総合医療センター小児科教授、総合周産期母子医療センター長
日本小児在宅医療支援研究会代表）

中尾 正俊（大阪府医師会副会長）

中村 知夫（国立成育医療研究センター在宅医療支援室長）

野田 正治（愛知県医師会理事）

福岡 寿（長野県自立支援協議会会長）

前田 浩利（医療法人財団はるたか会（子ども在宅クリニックあおぞら診療所）理事長）

峯 真人（日本小児科医会理事）

柳原 俊雄（新潟県医師会理事）

山田 雅子（聖路加国際大学看護学部教授）

渡辺 志伸（兵庫県医師会常任理事）

<委員会設置期間>

平成 28 年 10 月（役員会における委員会設置決定日

～平成 30 年 6 月代議員会終結日）

<担当役員>

中川副会長（地域医療、周産期・乳幼児保健）

松本吉郎常任理事（主）、鈴木常任理事（在宅医療）、釜菴常任理事（地域医療）、

温泉川常任理事（周産期・乳幼児保健）

（地域医療第 1 課（主）、地域医療第 3 課）